

特集

3・11後の大学の役割

大きな被害をもたらし、今もなおその余波が消えない東日本大震災。
多くの人が予想し得なかった巨大災害がもたらした影響は、
政治、産業、経済、文化などあらゆる面に及び、
社会の構造、人々の価値観、ライフスタイルまでも変えつつある。
日本、そして海外にも大小さまざまな変化が生じている今、
大学は社会においてどのような存在であるべきなのか。
揺れ動きつつある学生募集マーケットへの対応から、
社会の要請に応えるための人材育成や研究活動までを視野に入れながら、
各大学の存在意義を打ち出し、競争力に結びつける方向性について考えたい。

■今、高校・大学に起きつつある変化の兆しを 4つの観点からレポートする

- 変化1 高校生の進路意識の変化—— P.4
——被災地の高校を訪ね、現場での指導状況を聞く
- 変化2 大学の意識・計画の変化—— P.10
——アンケート調査から、全国の大学の震災への対応を探る
- 変化3 高校生・保護者の意識変化—— P.13
——2つの全国調査を基に、高校生の進路選択行動を予測する
- 変化4 受験生の動きの変化—— P.16
——進研模試の結果から、2012年度入試の志望動向を読み解く

■オピニオン—— P.20 学生への経済的支援と情報提供の課題

■展望—— P.22 震災に対応して動き出した3つの取り組みを通して、 地域・社会・人々をつなぐ「場」としての大学を考える